



例年この時期になると桜前線が話題になります。我が国では梅が咲くと次には木蓮や辛夷、桃、桜、ツツジやサツキと順番に開花していくのを楽しむことができます。これらの開花期間は地域によっても異なりますが、花と花の間も長短がありますね。各地の古民家はこういう風景の中で営まれた生活を表しています。

## やはり、いい反応

### 地域史料の力

これまでの教科書を中心とした学校での歴史学習は、何かどこか遠い所で昔にあった出来事＝今の自分の生活には関りが無いという感覚があります。そうしたこともあって、近年では主体的に生きる人を育てるという観点から、地域史(地域の出来事)を取り入れようとする試みが行われています。1月に市立西方小学校で埼玉県社会科(東部ブロック)研究会が行われ、越谷の史料を用いた6年生の歴史授業が展開されました。その一端をご紹介します。

### 単元のテーマ:「長く続いた戦争と人々の暮らし」

|  | 各授業のテーマ                  | 内 容                     |
|--|--------------------------|-------------------------|
| 課題をつかむ                                 | ①原爆ドームの姿                 | 3つの時期の写真を見て、学習の課題をとらえる。 |
| 調べる<br>各自のタブレットにある資料を駆使して、いくつかの視点で調べる。 | ②広がる中国との戦争               | 満州事変～日中戦争・・・どんな戦争だったのか  |
|  | ③戦争の拡大                   | 第二次世界大戦、太平洋戦争           |
|  | ④戦争中の人々の生活 <b>【研究授業】</b> | 配給制、勤労動員、集団疎開           |
|  | ⑤本土空襲                    | 東京大空襲など                 |
|  | ⑥戦争の終わり                  | 沖縄戦、原爆、ソ連参戦、降伏          |
| まとめる                                   | ⑦まとめ                     | 戦争の影響など                 |

上の表中④が今回行われた授業です。この中で用いられた越谷地域史料は次のものでした。



教科書『初等科1年 算数』  
(越谷市教育委員会蔵)

昭和16年(1941年)以降使用された教科書で、数を認識させるのに兵士や軍用機が描かれています。



なぎなた  
薙刀の演武  
(越谷市教育委員会蔵)

昭和16年以降の国民学校では、高学年児童に「武道」の授業がありました。男子は剣道や銃剣術、女子は薙刀でした。この写真は越ヶ谷国民学校(現・越ヶ谷小学校)での様子です。



出征兵士見送り  
(越谷市教育委員会蔵)

越ヶ谷駅頭と思われます。児童は正装して見送りました。英霊(戦死者)を迎えることも次第に多くなっていきました。

この研究授業中、指導の先生が児童たちに「調べる」視点として確認したのは、「衣」「食」「住」と「学校」でした。この内、4つ目の「学校」という視点で調べていた児童が見ていた資料が、この写真でした。指導の先生は予め生涯学習課に当時の地域史料提供を申請され、いくつもの史料を吟味の上、児童のタブレットの中に仕込んで備えておられたのです。児童たちは各自で調べたことを小グループでまとめ、それを発表して知識や感想を共有していました。その一部の「まとめ」をご紹介します。(視点「学校」の部分)

- ★戦争の絵が教科書にあるなど、かなり戦争をすすめるような教育だった。
- ★小学生でも戦争へ出向く訓練を受けていた。
- ★心身を鍛え、身を捧げていた。

児童たちは戦地にはいない小学生にとっても戦争が身近だったことを感じたようです。そして前掲の写真が書き

れた際、先生が「これは今の越ヶ谷小学校の様子だよ。」と補足すると、児童たちから「へえー！」という声があがりました。授業後、参観した様々な学校の先生たちも「地域の史料を使うと反応がいいね」と話し合っていました。

## 史料との対話 地域史料のメリット

児童の反応や事後の参観者の言葉からも、地域史料を用いる意義が伝わってきますね。この研究会が発行した『実践事例集・第12集』には、他校で行われた同じ単元の授業報告の中に次のような文があります。

★地域素材を教材化して学習に取り入れることで、児童にとって時間的・空間的に離れている戦争という歴史的  
事象を身近に捉えさせることができた。

★歴史的な事象と自分とのつながりが分かることで、児童の興味・関心は高まり、意欲的に問題を追究することにつながった。

このような意義がある地域史料ですが、普段の校務の中で先生方がこれを駆使することには大変なご苦労があると思います。生涯学習課では市史史料のデジタルアーカイブを進めており、一部はすでに閲覧して頂ける状況ですが、今回のように先生方からのご要望があれば、精一杯対応させて頂きたいと考えております。

# 370年間の年代記

こしまき なかしんでん おびしやさいらいちよう  
越巻中新田 産社祭礼帳

実に370年もの間、市域の中で受け継がれている行事と記帳があります。370年前といえば江戸幕府4代将軍・家綱の頃で、明暦の大火で江戸城や町が広範囲で焼けたり、徳川光圀（水戸黄門）が「大日本史」の編纂を始めた頃です。途中には記帳がない時期もありましたが、今もなお連続と受け継がれています。けれども継承の困難さもまたあるようです。

この行事とは「オビシヤ」です。「御歩射」や「御奉射」と言われたものが訛ったものだそうで、市域にあつたいくつかの近世農村でも行われてきました。村の神社で弓矢の的射を行い、収穫に感謝して祝う行事が基になっていることが多いようです。この折に記帳された記録が「祭礼帳」です。（『埼玉のオビシヤ行事』（埼玉県教育委員会）等）

市域で370年も書き綴られている祭礼帳は『越巻中新田 産社祭礼帳』（越谷市指定有形文化財）です。この中からいくつかご紹介しましょう。（現代文で要約）

- ◆寛保2年(1742):8月2日、大出水があり、関東一帯は水かさか2mほどにもなった。そのため年貢は無しとなった。
- ◆寛政4年(1792):4月、伊奈家断絶となった。春から夏まで旱。綾瀬川から村人が協力して水を運んで、この年、豊作となった。
- ◆嘉永6年(1853):6月12日、異国船の浦賀来航(ペリー来航)で、海岸防備の諸大名様が大勢ご通行のお触れが出された。【この部分は左の写真中、赤線部の要約です。】
- ◆昭和22年(1947):敗戦から2年、我が民族にとって最も困難な年だった。占領下の制限があり、また食糧不足が甚だしくて、大都市ではかなりの餓死者も出た。

そして最新の記帳は次のように記されています。

- ◆令和5年(2023):新型コロナウイルス感染症の法律上の分類が五類に引き下げられた。日経平均株価が6月には33000円台に回復した。6月2日からの大雨、台風2号により、当地区でも道路の冠水があった。水稻は高温障害で品質低下に悩まされた。年が明け、能登地震発生。マグニチュード7.6を記録した。



(タブレットで調べている児童)

